
提 言 書



2014年(平成26年)9月24日

盛岡商工会議所
ILC 実現検討会議

提言にあたって

岩手県内各地では、東日本大震災津波からの復興をめざして懸命に取り組まれているところではありますが、現状から見た岩手の将来は、人口減少により2040年（平成52年）には数多くの自治体の存続が危ぶまれるとの推計もあります。

一方、東北各県においては加速器関連プロジェクトが計画されており、その中心となる日本初の大型国際プロジェクトとして ILC が実現すれば、我が国が標榜する「科学技術創造立国」の大きな柱となり、岩手県が世界最先端の加速器研究拠点として明るい未来を切り拓くことができます。

盛岡商工会議所は、2013年（平成25年）12月25日、ILC 建設実現にむけた課題について県都盛岡市として必要な各種調査・研究等を行うことを目的として ILC 実現検討会議を設置しました。

県都盛岡市として ILC 実現にむけどのような役割を果たしていくべきか、盛岡商工会議所の8つの常設委員会が中心となり民間の発想とスピード感を持って可能な限り多くの課題について検討を加え、めざすべき地方都市の姿の一つをまとめました。

本提言は、ILC の実現をめざし盛岡市、岩手県の未来の創造にむけて「まちづくり・産業育成・国際化」などの観点からまとめたものでありますが、今後、行政、大学、関係団体との連携を強め「真のグローバル都市形成」にむけ、さらに調査・研究を進め、一日も早い ILC の実現をめざしてまいります。

2014年(平成26年)9月24日

盛岡商工会議所 ILC 実現検討会議 議長
盛岡商工会議所 会頭

谷 村 邦 久

目 次

未来にむけてグローバル都市の実現をめざそう !!

～世界から集まってくる人々が笑顔あふれる暮らしをおくられるように、

世界に岩手・盛岡らしさを発信していこう～ 4

I 関係機関との連携にむけて

提言1 行政・大学・研究機関・産業界からなるオールいわての推進 8

I. 概要 8

II. ILC の意義 8

III. まちづくり（文化・科学拠点）の推進 8

IV. 人材拠点・産業拠点づくりの推進 9

V. 国際的拠点づくりの推進 10

II まちづくりにむけて

提言2 未来にむけたグローバル都市～暮らしやすいまちづくりと知の拠点～をめざして 12

I. 概要 12

II. ILC 実現にむけたまちづくりを考える上での前提条件 12

III. ILC 実現にむけたまちづくり構想 12

提言3 再生可能エネルギーを利用した環境にやさしいまちづくり 16

I. 概要 16

II. 省エネルギーや再生可能エネルギーの利活用による環境にやさしいまちづくりを推進 16

III. 災害の影響を抑制するまちづくりの推進 17

III 外国人対応にむけて

提言4 自然と科学が織りなす国際的な歴史・文化都市「MORIOKA」へ 20

I. 概要 20

II. 来訪者を導く 20

III. 来訪者を案内する 20

IV. 総合情報の発信と誘客事業の展開 21

提言5 外国人研究者が研究に専念できる生活環境と家族がなじめる地域づくり 22

I. 概要 22

II. 外国人研究者等が暮らしやすい生活環境の整備 22

III. 外国人研究者と家族等がなじめる地域づくりの構築 24

IV 企業の参入にむけて

提言6 国家戦略特区構想に関連した生活基盤の確立と地元企業の参入にむけて	26
Ⅰ. 概要	26
Ⅱ. 国家戦略特区構想の可能性について	26
Ⅲ. 生活基盤の確立	27
Ⅳ. 地場企業が参入しやすくするための措置	28
提言7 意欲ある地元企業が参入するための仕組みづくりと加速器関連産業の集積にむけて	30
Ⅰ. 概要	30
Ⅱ. 意欲ある地元企業が参入するための仕組みづくりとして	30
Ⅲ. 加速器関連産業の集積にむけた取り組みとして	32

V 広報戦略にむけて

提言8 ILCのブランド化と世界にむけた岩手ブランドの魅力発信	36
Ⅰ. 概要	36
Ⅱ. ILCのブランド価値	36
Ⅲ. ILCのブランド価値の共有にむけて	37

資料編

盛岡商工会議所 ILC 実現検討会議提言書 検討経過、委員、会則等	40
視察① KEK 等現地視察会	44
視察② 柏の葉スマートシティ現地視察会	48
視察③ SPring-8・播磨科学公園都市視察会	52
新聞記事	55

未来にむけてグローバル都市の実現をめざそう！！

～世界から集まってくる人々が笑顔あふれる暮らしをおくられるように、
世界に岩手・盛岡らしさを発信していこう～

I 関係機関との連携にむけて

提言1 行政・大学・研究機関・産業界からなるオールいわての推進

(総務政策委員会)

ILCは世界にただ一つ建設される基礎科学の研究拠点であり、真の国際拠点となる。ILCは岩手のみならず東北全体の復興ひいては日本の再生にもつながる国際プロジェクトであることから、オールいわての体制が整備され、東北一丸およびオールジャパンへと気運を醸成させるかが重要であり、そのために私どもはILCを実現することの意義を行政・大学・研究機関・産業界がよく理解し、それぞれが有する資源・機能を有効に活用、連携できるように本提言を推進してまいりたい。

II まちづくりにむけて

提言2 未来にむけたグローバル都市～暮らしやすいまちづくりと知の拠点～をめざして

(まちづくり委員会)

「豊かな自然環境」「地域の文化・まち並み」と融合したまちづくりをめざし、研究者らが安心して生活できるような住環境や、国際コンベンションを開催するための施設・体制等を整備するとともに、自然・歴史・文化・食材等を満喫できる多様なアクティビティを提供する都市の整備を進める。また、産学官連携による新産業創出等を促進し、持続的に成長する「知の拠点機能」を持つ都市づくりを行う。

提言3 再生可能エネルギーを利用した環境にやさしいまちづくり

(環境問題特別委員会)

「環境にやさしいまち」をめざし再生可能エネルギーを利用したまちづくりを推進する。化石燃料エネルギーから再生可能エネルギーへの代替を進め、地域内で資源が循環する「エネルギーの地産地消」を促進するとともに、東日本大震災津波のような災害に左右されない自立したエネルギー体系の確立したまちづくりを推進する。

III 外国人対応にむけて

提言4 自然と科学が織りなす国際的な歴史・文化都市「MORIOKA」へ

(観光国際委員会)

外国人が安心して生活できるような「国際都市 MORIOKA」をめざす。そのため「来訪者を導く」「来訪者を案内する」ことを念頭に盛岡市内に掲示されるサイン類の見直し、WiFi設備の充実、

ボランティアガイドの育成などを行う。さらに、「国際都市 MORIOKA」を世界にアピールするための新たなイメージづくりを行う。

提言5 外国人研究者が研究に専念できる生活環境と家族がなじめる地域づくり

(税制問題特別委員会)

外国人研究者とその家族が安心して快適な暮らしをおくることができるよう、居住・生活全般・医療・教育・交通等各分野の環境整備に取り組む。

また、ILC を国際的な地域社会を創造する大きな機会ととらえ、身近な文化交流を経て将来の「国際交流都市」への発展をめざし、次代を担う若者や子供を中心とした様々な国際交流を推進する。

IV 企業の参入にむけて

提言6 国家戦略特区構想に関連した生活基盤の確立と地元企業の参入にむけて

(中小企業振興委員会)

国家戦略特区申請を念頭におきながら、外国人研究者の金融取引にかかわる信用保証への対応、国内未認可医薬品への対応、外国人子弟の教育体制の拡充など外国人研究者等の生活全般の利便性を向上させる。

研究施設等のアウトソーシング業務について、研究施設等と地元企業双方向の各種の情報交換を行い、地元企業主体の研究会を組織するなど地元企業の受注を進める環境づくりを行う。

研究開発分野における研究者のニーズと地元企業の技術のマッチングを目的とする情報統合ポータルサイトの新設、見本市等の開催により地元企業の参入機会の拡大を促進する。

提言7 意欲ある地元企業が参入するための仕組みづくりと加速器関連産業の集積にむけて

(産業育成特別委員会)

ILC の建設や運用に伴う業務に地元企業が参入することは、地元企業の技術力や信用力を高め、地域に新たな雇用や産業を生み出すきっかけとなるほか、加速器関連産業が集積することは、次世代の新技术や新産業の土台を作り、高い成長力につながるものである。

そのためには、地元企業が参入できる分野や可能性、障壁等を把握し、参入機会を検討・拡大するとともに、企業誘致のための環境整備や誘致企業のニーズに応えられるような産学官の連携と人材の高度化を進めていく。

V 広報戦略にむけて

提言8 ILC のブランド化と世界にむけた岩手ブランドの魅力発信

(盛岡ブランド創出特別委員会)

岩手県民が ILC と地域のかかわりを深く知り、将来を担う子どもたちに夢と希望を与える ILC のブランド化にむけた活動を展開する。ILC について積極的に学ぶことができるよう体験型学習施設等を利用した ILC の情報発信拠点を設ける。ILC の実現を契機に岩手・盛岡の魅力とおもてなしの精神を全世界に発信する。